

# 医療だより

## 市民医療センター

戸田市美女木4-20-1

☎ 421-4114 FAX 421-4218

国際興業バス 西川口～北戸田線

●「市民医療センター」下車

toco バス(美笹循環)

●「市民医療センター」下車



## 診療科目

● 内科、小児科、消化器内科、神経内科、呼吸器内科、整形外科、耳鼻咽喉科  
診療科目によっては、診療日が決まっている場合があります



## 受付時間

- 月曜日 午前8時30分～11時30分、午後2時～5時
- 火～金曜日 午前8時30分～11時30分、午後1時30分～5時
- 土曜日 午前8時30分～11時30分、午後1時30分～4時
- 予防接種：月・水・金曜日(要予約)

**【産婦人科】休日診療時間** 午前9時～正午、午後1時～5時

※当番医は変更になる場合もあります。受診前に必ず電話でお問い合わせください。受診は急患のみです

11月3日(祝・金)	蕨市立病院 ☎432-2277
11月5日(日)	蕨市北町2-12-18
11月12日(日)	白石はなもレディースクリニック ☎434-4809 戸田市新曽2200-2ロイヤルメドウ北戸田2F
11月19日(日)	戸田中央産院 ☎444-1181 戸田市上戸田2-26-3
11月23日(祝・木)	シュシュレディースクリニック戸田公園 ☎242-8088 戸田市上戸田2-7-9
11月26日(日)	蕨市立病院 ☎432-2277
12月3日(日)	蕨市北町2-12-18
12月10日(日)	白石はなもレディースクリニック ☎434-4809 戸田市新曽2200-2ロイヤルメドウ北戸田2F

## 休日・平日夜間の診療機関(急患)

かかりつけ医を持ち、早めの受診を心掛けましょう

※受診前に電話でお問い合わせください

新型コロナのPCR検査は行っていません。

**【内科・小児科】** ※詳しくは蕨市医師会ホームページをご覧ください

### 戸田休日・平日夜間急患診療所

●蕨市医師会館となり ☎445-1130

休日診療日 11/3、5、12、19、23、26

休日診療時間 午前9時～正午、午後1時～5時

平日夜間診療月 11月(奇数月)

毎週月～金曜日の平日夜間診療時間

午後7時30分～10時30分 ※休日を除く

### 蕨休日・平日夜間急患診療所

●蕨市福祉・児童センター内 ☎431-2611

休日診療日 12/3、10

休日診療時間 午前9時～正午、午後1時～5時

平日夜間診療月 12月(偶数月)

毎週月～金曜日の平日夜間診療時間

午後7時30分～10時30分 ※休日を除く

### 【小児科】※平日夜間診療時間のあと

毎週月～金曜日の平日夜間診療時間 午後10時30分～翌朝7時

※受診される場合は、必ず事前に各医療機関に電話でお問い合わせください

月・水・木・金曜日 ●戸田中央総合病院(戸田市本町1-19-3 ☎442-1111)

火曜日 ●済生会川口総合病院(川口市西川口5-11-5 ☎253-1551)



## 救急電話相談

#7119 ☎048-824-4199 (ダイヤル回線、IP電話、PHS、都県境の地域でご利用の場合)

24時間相談対応 年中無休

年齢を問わず、急な病気(発熱、下痢、おう吐など)やけがの家庭での対処方法や医療機関の受診の必要性について、看護師が電話で相談に応じます。判断に迷ったときは気軽にご連絡ください。緊急に医療機関の受診が必要な時は、受診可能な医療機関(歯科を除く)を案内します。

※県AI救急相談も行っています。電話が苦手な方でも気軽に相談できます。県医療整備課のホームページから右のQRコードから、スマートフォンやパソコンでご利用ください。この電話相談およびAI救急相談は助言を行うもので、診断や治療を行うものではありません

問い合わせ 県医療整備課 ☎048-830-3559

県精神科救急情報センター ☎048-723-8699(ハローキューキュー)

夜間・休日に、精神疾患を有する方や、その家族などからの緊急的な精神科医療相談を電話で受け付けています。相談内容から適切な助言を行い、必要に応じて医療機関の紹介を行います。非通知設定の電話はつながりませんので、番号を通じて電話でお掛けください(県在住者が対象)。

受付時間 月～金曜日：午後5時～翌朝8時30分、

土・日曜日、祝日：午前8時30分～翌朝8時30分

問い合わせ 県立精神保健福祉センター ☎048-723-3333



## コラム

### アルツハイマー病新薬の発売に想う

認知症の新薬が間もなく発売されます。この20年以上の間に開発された認知症治療薬の承認状況は、4勝146敗と惨憺たるものでしたが、やっと5勝目です。今回の新薬はメカニズムに働きかけて病理や病態を改善する「疾患修飾薬」で、今までの「症候改善薬」とは根本的に異なります。

ただ、この治療薬にはいくつかの大きなハードルが存在します。まず正確な「アルツハイマー病」の診断が必要となり、その検査に高額な費用と労力を要します。さらに、治療の効果は2年間病院に通い毎月点滴治療を受け続けても、進行が数カ月遅くなる程度です。しかも、ほとんど認知症症状のない初期に治療を開始しないと効果がありません。

認知症の新薬開発は本当に難しいものです。今回の新薬は大きな課題を残したままという印象ですが、診断技術の進歩や今後の新薬開発ではそれなりの貢献をしようと感じます。さらに今まで開発された薬が認知症に有効な可能性が示唆され、「ドラッグリポジショニング」も注目されています。私は神経内科医として認知症診療に関わるようになり約40年、自分自身の問題として認知症が身近に感じられる年齢となりましたが、果たして我々の世代はこれら新薬の恩恵にあずかることができるのでしょうか…。



市民医療センター 所長  
神経内科 飯島 昌一 医師